

建設産業における ワーク・ライフ・バランス  
の実現にむけて

ひとつ「働き方」を変えてみよう!



カエル! ジャパン  
Change! JPN

# R48<sup>週 休</sup> ROADMAP

[アールよんぱち] 2011.2.18 No.8

## 満足していますか? ワーク・ライフ・バランス

わーく!

らいふー



### 【満足していると回答した人の意見】

現在は自分のペースで仕事でき、**土日祝日**に家族との時間を確保できる。

仕事が忙しかった分、趣味に打ち込むなど**バランスよく調整**している。

仕事はやりがいがあるので、あとは**生活とのバランス**。

### 【ワーク・ライフ・バランスを考えるうえでヒントとなる意見】

しっかり**休みを取得**できる職場作りがWLBには重要。

**有給休暇**や**長期休暇**を取得しやすい環境になってほしい。

せめて**週休2日**あると体も休まる。今は「仕事9：生活1」の割合。

**自己啓発の時間**や子供の成長を見る時間は、仕事の充実と繋がるはず。

共稼ぎなので、夫の**育児と家事の分担**は不可欠。

家事も仕事と考えれば妻は自分以上に仕事寄り。妻に感謝しています。

### 【満足していないと回答した人の意見】

現場が**休日稼働**しており、休日も携帯電話を気にして気が休まらない。

**週一日の休み**では、一日寝ているので、家族でどこにも出かけられません。

**土曜出勤**も多く、夕食を共にする事すら困難。父親の存在も希薄に。

**単身赴任**となると夫も子供もなかなか会えず、寂しがっています。

主人は**毎日帰りが遅く**、子供の寝顔しか見ることができない日々です。

自己学習する時間や、**家族との時間**を持たず、充実していない。

今の時代週休2日が基本なのに夫の**休みは日曜だけ**。

夫が忙しい分、一人で子育てをこなさないと。自分の時間も欲しい。

**少ない休日**に、疲れているなか子供と遊んでくれる夫に感謝しています。

ワーク・ライフ・バランスって何でしょう。  
生の声から建設産業における課題が見えてきますね。



設問「あなたの配偶者、またはあなた自身のワーク・ライフ・バランスに満足していますか」に対する意見（抜粋）（日建協家計調査 2010年9月）

産業政策

国土交通省 建設産業戦略会議

## 知っておきたい最新動向

次世代

2010年度『日建協出前講座』をつうじて

## 大学生に伝えたこと

コラム

大鉄工業労働組合 山本 一史 さん

## 『おきにいい MY BOOK』 —神様のカルテ 2—

次号予告

■土曜閉所

## 2010.11.13 統一土閉結果

■提言活動

■コラム

お知らせ

「Roadmap48」とは

建築工事の4週8休（週休2日制）での工期設定の実現や、公共工事における労働条件向上と諸課題の解決にむけた提言活動など、日建協の活動を組合員の皆さんに知っていただくための広報誌です。

①組合活動の資料として、②職場での情報交換の材料としてご活用ください。

次号の予定は変更する場合があります。

この広報誌は日建協ホームページからダウンロードできます。

<http://www.nikkenkyo.com>

NIKKENKYO NEWSをご覧ください。

日建協

# 大学生に伝えたこと



加盟組合から参加した計6名の講師が建設産業の魅力を紹介。

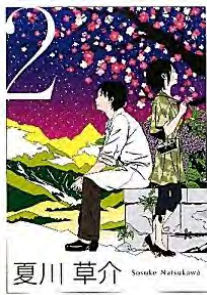
2010年度に予定していた『日建協出前講座』の全日程を昨年12月に終了した。法政大学、名古屋工業大学、東洋大学、大阪工業大学、北海道大学の計5大学で開催され、400名の学生が受講した。

「現場監督に適した人6力条」海外で働くことも視野に「仕事が地固に残る喜び」「体育会系の学生生活が糧に」など、講師から学生にむけたメッセージもさまざま。実際にゼネコンで働く技術者として、自身の言葉で建設産業の魅力を伝えた。

この出前講座では、学生のゼネコンに対するイメージなども調査しており、産業の魅力化にむけた日建協の活動に、今後活かしていく考えだ。

コラム

## 『おきにいい MY BOOK』 神様のカルテ 2



『神様のカルテ2』  
夏川草介 (小学館)

大鉄工業労働組合 山本 一史 さん

この物語は、夏目漱石を敬愛する(変人?)内科医と、その周辺で巻き起こるドラマを綴ったものです。なぜ2作目なのかって?それは、主人公の境遇があまりにもリアルだからなんです。24時間、病院に拘束され、家庭を犠牲にして必死に病魔と闘う医師。

—狂っているとは思わないか? 僕らはただ医者であるというだけで、まともな食事も睡眠も保障されていないんだ。—

親友に言われたこの言葉に、主人公は妻の笑顔を思い浮かべ、一緒に過ごした時間があまりにも少ない事に気づくのです。我々の業界に巣くう境遇にも似ている気がしませんか。

—患者をとるか家族をとるかという問題は、最大の難問だ。改革と称して交わされる議論も、技術や金銭の問題に終始するから解決しない。—

いかがでしょう、今の建設産業においても技術や金銭の話ばかりで、実際に働いているわたしたちの家庭や生活が軽んじられていないでしょうか・・・。

それでも、この本にはこんないい言葉もあります。  
—良心に恥じぬということだけが、我々の確かな報酬である。—

仕事だけでなく、人生においても『良心に恥じぬ』ということを基準に、日々生きていきたいものです。

産業政策 国土交通省 建設産業戦略会議

## 知っておきたい最新動向

国土交通省は「建設産業の再生と発展のための方策に関する当面の基本方針」を発表した。昨年12月に有識者会議「建設産業戦略会議」(座長 大森文彦東洋大教授)がとりまとめたもので、「建設産業政策2007」をベースとして、当面実施すべき施策の方向性を示すという位置づけだ。

③大手・中堅企業による技術力・事業企画力の発揮、④過剰供給構造の是正、これら4施策を提示した。

具体的には入札への参加企業の絞り込みと、企業の成長につながる技術力などを重視した契約方式の実施や、海外展開のためのリスク軽減策の導入、保険未加入企業の排除や、重層下請構造の是正と、直接的・安定的に労働者を雇用する企業の重視などが上がっている。

めには、建設業法等の改正、入札契約適正化法に基づく適正化指針の改正(閣議決定)、財政・金融上の支援措置等、可能な限りの政策手段をとる必要があるとしている。

どのような政策ツールが用意できるか、これらが具体策の議論の始まりとなる。

(上)「建設産業の再生と発展のための方策に関する当面の基本方針」  
／ 国土交通省・建設産業戦略会議 (2011.1.6)  
詳しくは国土交通省ホームページ 報道発表資料をご覧ください。  
[http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/const/sosei\\_const\\_tk1\\_000029.html](http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/const/sosei_const_tk1_000029.html)